

# 第1章 各教科

## 第1節 国語

### 第1 本指導実践事例集の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 本資料は、小学校学習指導要領及び埼玉県小学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえ、言語の教育としての立場を一層重視し、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付ける学習指導の展開の参考となるよう、実践例を示したものである。
- (2) 小学校学習指導要領の国語の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」である。この目標を実現するためには、「言語活動の充実」「学習の系統性の重視」「学習活動に即した評価規準の設定」に留意する必要がある。よって、本資料では、これらについての具体的な実践例を示すこととした。

#### 2 取り上げた内容

##### (1) 概要と趣旨

###### ア 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究できる言語能力を身に付けさせるために、小学校学習指導要領に示された言語活動例を通して指導事項を指導することが重要である。本資料では、言語活動の充実を図り、国語科の指導を効果的に行うために、学校や児童の実態に応じた言語活動を工夫するという視点から授業展開例を示した。

###### イ 学習の系統性の重視

2学年のまとめりで示されている3領域1事項の目標・内容について、各学年で指導する内容を具体化し、学年・単元間の系統性を明らかにした指導計画を作成し、見直しをもって日々の指導に当たることが重要である。本資料においては、小学校だけでなく中学校までの9年間の系統性を踏まえることの重要性も考え、伝統的な言語文化に関する事例には、小学校での学習を受けた中学校での授業の系統性も示した。

###### ウ 学習活動に即した評価規準の設定

児童の具体的な反応や姿がどのようになっていけばよいのかを表した「学習活動に即した評価規準」を設定して、各時間の指導に当たり、学習の達成状況を適切に評価し、その後の指導に生かすことが重要である。本資料では、各評価場面における評価方法や評価結果を踏まえた指導・支援の手立て等について具体例を示した。

##### (2) 構成

本資料は次の内容で構成した。なお、学習内容の明確化と指導と評価の一体化のために、各事例の中の「学習内容」の項目について、記号の付け方を工夫した。「○」は、本時で指導して評価する新出の学習内容、「・」は、本時では評価しないが、繰り返し意識させる既習の学習内容として、区別して表記した。

**事例1** 言語活動の充実①…論題について資料を集め、意見交流するパネルディスカッションを行う事例（第6学年）  
（話すこと・聞くこと）言語活動例イ「調べたことやまとめたことについて、討論などをすること」を通した指導

**事例2** 言語活動の充実②…共通体験で視点や書き方を学び、自分の知らせたい内容を書く事例（第1学年）  
（書くこと）言語活動例イ「経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと」を通した指導

**事例3** 言語活動の充実③…植物の生態について説明した文章を読み、習得・活用を意識した単元構成の事例（第2学年）  
（読むこと）言語活動例イ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」を通した指導

**事例4** 伝統的な言語文化の指導…古文を音読して、伝統的な言語文化に親しむ事例（第5学年）

**事例5** 学校図書館の活用の充実…一つの物語をきっかけにして、幅広く読書をする事例（第4学年）

**事例6** 書写の指導の充実…基本点画の穂先の向きと筆圧を意識させる事例（第3学年）

#### 3 活用に当たっての配慮事項

本資料は、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料及び同評価資料と相補するものであり、ともに活用し、学習指導の充実、日々の授業改善を図ることが大切である。

学習指導要領の全面实施を受け、国語科としての今日的課題の解決に資するよう配慮したが、実践に当たっては学校や児童の実態を踏まえ、創意工夫を加えた上で御活用いただきたい。

## 第2 実践事例

### 事例1 言語活動の充実① (A 話すこと・聞くこと)

本事例は児童の興味・関心のある論題について新聞や広報誌等を利用して様々な立場から資料を集め、意見を深め、互いの意見を交流し合い、パネルディスカッションを行う事例である。

言語活動例イ「調べたことやまとめたことについて、討論などをする事」を通した指導 (第5学年及び第6学年)

#### 1 単元名・教材名 パネルディスカッションをしよう 「未来の川越をつくろう」 【第6学年 10月実施】

#### 2 児童の実態と本単元の意図

本学級では、これまでに「話すこと・聞くこと」の能力を高めるため、相手意識をもって発表をすること、話し手の意図をとらえながら聞くことを意識させて取り組ませてきた。6月に行った学級討論会では、それぞれ自分の立場を意識し、相手意識をもって発表をしたり、発表を聞いたりすることができていた。しかし、教師から提案したものに対しては一生懸命に取り組む児童が多いが、自分でテーマを決め、それを裏付ける資料を用意し、自分の思いや考えを一人で発表したり、相手の意見を自分の考えと比べながら聞いたりすることにおいては課題が見られる。

本単元は、児童にとって身近である地域のことをテーマに、話す題材を集め、児童一人一人にパネリスト・司会・フロアそれぞれの体験をさせ、討論することを主たる学習活動としている。児童が一人でパネリストとして話すためには、より身近で調べやすく、広がりのあるテーマを設定することが重要である。そこで、総合的な学習の時間とも関連させて取り組み、地域の歴史・環境・福祉・安全など、これまでに様々な調べ活動をした経験を生かして、「未来の川越をつくろう」というテーマでパネルディスカッションを行う。

指導に当たっては、20年前の川越の様子をビデオ等で見て、この20年間でどのように変わったのかを知った後、これから自分たちがどのような未来を創っていくのがよいのかを考えさせる。児童には資料の集め方として取材の他、新聞や広報誌といった意見を述べた文章を利用していくことを体験させる。また、発表の手引き等を用いたり、他グループの児童とペアを組んで助言をし合ったりさせて、話す・聞く力を付けていく。

#### 3 単元の目標

- (1) 自分の考えを明確に伝えるために、調べたことやまとめたことについて、討論をしようとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 伝えたいことから話題を決め、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。  
(話すこと・聞くこと)
- (3) 話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞き手を意識した話し方をすることができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### 4 単元の評価規準や学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・テーマに関わる自分の立場や考えを明確にして、計画的に話し合い、考えを深めようとしている。	・調べた情報や知識を関連させ、話し方を工夫し、自分の考えと比べて聞き、パネルディスカッションの形式に基づいて、計画的に話し合っている。	・話し言葉と書き言葉の違いに気付き、その場にふさわしい言葉や話し方を適切に選び、話したり、聞いたりしている。
学習活動に即した評価規準	①積極的にパネルディスカッションに参加し、計画的に取り組もうとしている。 ②取材に行ったり、新聞記事や広報誌などを読んで、効果的な資料を収集したり、考えをまとめたりしている。 ③助言や提案をし合い、説明をよりよいものにならそうとしている。	①調べた情報や知識を基に効果的な資料を作成したり、提示の仕方を工夫したりして、話している。 ②自分の考えと比べながら、相手の考えを尊重して意見を言ったり、質問をしたりしている。 ③パネルディスカッションの形式に基づいて時間内にまとめられるよう、発言内容や発言回数に注意して話し合っている。	①発表の場にふさわしい言葉や話し方を適切に選び、聞き手を意識した話し方で発表をしている。

## 5 指導と評価の計画（全10時間）

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○パネルディスカッションの大テーマ「未来の川越をつくろう」を知る。 ・20年くらい前の川越の様子をビデオで見て、今の川越と比較をする。 ・20年後の川越について考え、どのような未来をつくりたいかを話し合う。	・課題の設定の仕方 漠然とした「未来」というのではなく、話し合いの論点を絞るために「20年後」という明確な数字を提示した。	アの① ・ビデオ視聴や話し合いの様子、態度の観察 ・ワークシートの考察（論題に対する記述内容）
2 ～ 4	○自分で考えた小テーマについて考えを深めていくために、必要な資料や提示物を作成する。 ・「学びの手引き」を使用して、目的に応じた提示資料を作成する。	・新聞記事や広報誌の読み取り方 ○目的に応じた提示資料の作り方 新聞記事や広報誌から自分の意見を裏付ける資料を集めさせる。出典を明記することも指導する。	アの② ・調べ学習の様子や態度の観察 イの① ・収集した資料の考察 ・掲示物や発表資料の考察
5	○「模擬パネルディスカッション」を体験する。 ・台本を使って模擬パネルディスカッションを行う。	○パネルディスカッションの仕方 ○パネルディスカッションの流れ ○パネリストの発表の仕方 ○司会の進め方 ○フロアの聞き方・取り組み方	アの① オの① ・発表の様子や態度の観察
6	○「練習パネルディスカッション」をする。 ・二つのグループをペアにして練習パネルディスカッションをする。		イの②③ オの① ・発表の様子や態度の観察
各グループをA・Bの二つに分ける。A同士が第8・9時でディスカッションを行うため、練習である第6・7時ではAとBが組んで助言を行う。 例：第6・7時【①川越祭りA・②川越の環境B】 第8・9時【①川越祭りA・②川越の環境A】			
7 本時	○前時の課題点に基づいて、発表に向けての練習をする。 ・録音や録画をして練習を行う。 ・掲示物や発表資料の校正を行う。	○資料の整理と効果的な資料提示の仕方 ・適切な言葉遣いでの話し方 ○相手を尊重した意見の言い方・質問の仕方	イの② ・発表の様子や態度の観察 ・ワークシートの考察（友達の発表に対する記述内容）
8 ・ 9	○学級全体でパネルディスカッション「未来の川越をつくろう」を行う。		イの③ オの① ・発表の様子や態度の観察
10	○パネルディスカッションを振り返り、自分の考えがどの意見でどのように深まったのかを考えて書く。	・学習内容の深め方	アの③

## 6 本時の学習指導（本時7/10時）

### (1) 目標


より良い説明にするには、どうすればよいかを考えて提案したり、話し手の意図がより伝わるようにするには、どのように修正すればよいかを助言したりすることができる。

### (2) 評価規準

自分の考えと比べながら、相手の考えを尊重して意見を言ったり、質問をしたりしている。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。		・前時の活動や個々の意見を称賛し、パネルディスカッションに対する意欲を高める。	2
おたがいに聞き合い、教え合って、説得力のある発表を目指そう。			

<p>2 学習の流れをつかむ。</p> <p>①前回の反省を伝え合う。 ②一人一人がパネリストとなり、2グループが交互に発表をする。次時の発表会の際に行う役割をなるべく担うようにする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループを AB 二つに分け、次時で一緒にディスカッションを行わない組同士で交流を行う。</li> <li>どのような質問や発表が効果的なのかが分かるように、手引きを児童に配布しておく。</li> </ul>	5
<p>3 流れにしたがって、2グループでの交流を行う。</p> <p>①前回の反省から課題を伝える。 司会者…パネリスト同士の意見交換の内容をうまくまとめられない。 パネリスト…質問の内容に答えられない。 フロア…テーマが深まるような質問ができない。</p> <p>②パネリストが発表をする。 ③グループ内で助言を行い、良い点と直した方が良い点を発表する。 ④フロアが質問する内容やそれに対するパネリストの答えを考えさせる。</p>	<p>○発表と助言の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いが深まるような質問の仕方</li> <li>意見交換のまとめの仕方</li> <li>資料の効果的な提示の仕方</li> <li>相手を尊重した意見の述べ方</li> </ul> <p>・司会者の意見のまとめ方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会やパネリストやフロア、それぞれの役割での反省を出し、次時の発表会で同じ役割を行う児童へ生かせるようにする。</li> <li>録音機を使用し、説明の仕方を自分自身でも確認できるようにする。</li> <li>最後の準備の時間とし、どのように発表するか、どのように質問するとよいのかを考えさせるようにする。</li> <li>互いの良いところと課題点をメモに書かせ、交流をする。</li> <li>自分とは違う立場のグループから、どのような質問が出されると予想されるかを考え、それに対する答えも考えておくようにする。</li> <li>提示資料は OHP や実物投影機、ビデオ等、聞き手に見やすく、説得力のある資料を用意させる。グラフ等も自分の主張したいことがより聞き手に伝わるよう色づかいを工夫させる。</li> </ul>	30
<p>児童の交流の様子</p> <p>C1：初めの主張で、未来の川越をこうしたいから、このことを調べたと強く言ってもよかったと思います。</p> <p>C2：そうですね。そうすると、もっと次の意見に説得力があります。資料のグラフがとてもよかったです。一年間のゴミの量は、一人当たりになるとどのくらいなのだろう。それが分かるともっと具体的に説得力がありますね。</p>		<p>評価場面</p> <p>&lt;学習活動に即した評価規準&gt; イの②</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表や話し合いの内容や態度による考察</li> </ul> <p>&lt;手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役割を理解できていない児童には、手引きを見ながら、パネリストの発表の良い点や課題点を言えるように助言する。</li> <li>役割をよく意識し、ペアグループの考えをよく理解できている児童には、称賛し、ペアグループの発表がさらに良くなるにはどうすればよいか、考えさせる。</li> </ul>	
<p>4 本時を振り返り、自己評価を行い、考えたことや感想を発表する。</p> <p>5 本時の学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の仕方</li> <li>まとめの仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習を振り返り、どのようなアドバイスをもらうことができたか、また、交流によって改善された点について自覚できるようにする。</li> <li>○児童の感想を生かし、次時の目標をもてるようにする。</li> </ul>	5 3



＜パネルディスカッションの小テーマと主な論点と発表内容＞

① 歴史・観光・川越祭りについて

- ＜論点＞・川越で古くから守られている建物 ・川越祭りの山車を守る
- ・川越祭りの歴史 ・川越祭りの観光客数を増やしていくには



川越祭りがかつて10月14日・15日と決まっていたが、10月第3土曜・日曜に行われるようになった経緯や観光客数の変化をグラフ化し、これからの祭りがどのように変わってほしいか、また自分たちがしていくべきことを述べている。市の広報誌や川越祭り会館へ取材に行ったことなどを資料として盛り込んでいる。川越祭りのときに流れたニュースのビデオを資料として使用した児童も見られた。

② 環境について

- ＜論点＞・ゴミを減らしていくには ・緑の多いまちにしていくには ・川のきれいなまちにしていくには

近所にある川を、魚が住める川と比較し、どのくらい汚れているのかを調べ、その結果をグラフ化し発表している。また、10年前よりもきれいになってきているという広報記事と自分自身が取り組んでいる水の汚れを防ぐ活動を紹介し、今後の川について意見を述べている。全国市町村のゴミ排出量の中で川越市が何位であるかを調べ、資料を提示している。ゴミ排出量が減ってきている今の市の取組も紹介している。

③ 安心できる暮らしについて

- ＜論点＞・自転車で快適に走れる安全なまちにしていくには ・大きな地震でも安心して暮らせるまちにしていくには

震災が起きたときに、市内のどこが避難所となり、どこに食糧や物資が保管されているのかを示したり、市が出している「液状化ハザードマップ」を紹介したりしている。新聞記事や広報記事を資料として提示するとともに自分たちにとってできることや、各家庭に求められていることを中心に発表している。

④ 高齢者福祉の充実について

- ＜論点＞・高齢者の方々も安心して暮らしていくには ・住む人に優しいまちにしていくには

現在の市内人口の高齢者の割合を20年前と比較して紹介している。川越市社会福祉協議会へ取材に行き調べたことをもとに、これからわたしたちがすべきことについて述べている。

【ワークシート・学習の手引きの例】



ワークシートと学習の手引きの例。ワークシートには「昔の川越祭りの様子」や「山車の教」に関する調査結果と「図書館・市役所・家の歴史について調べる」などの課題が記載されている。学習の手引きには「発表の手引き」や「話し方のポイント」が示されている。

⑤ 運動能力や体力について

- ＜論点＞・子どもたちの運動能力を高めていくには

市内の児童の体力テストの結果を20年前と比較している。低下している原因を探り、体力を高めていくためにはどうしたらよいか、公園等の遊び場所に注目して資料を集め、意見を述べている。また、これからどのように生活をしていくべきかを考えている。

⑥ 道路や鉄道などの交通について

- ＜論点＞・もっと便利になる道路やシャトルバス
- ・電子化していく暮らし
- ・鉄道の移り変わりといくからの駅 (利用者数を比較して)

環状道路や高速道路などの建設状況などを調べ、地図や航空写真などを用いて発表している。道路がどのように変わってきているのかを発表するとともに、これからの川越市がこうなってほしいと自分の考えを述べている。鉄道では、一日の利用者数と駅構内の工夫を調べ、今後、駅がどのようになってほしいか、環境問題と絡め、自分の考えを述べている。



学習の手引きと発表の手引きの例。学習の手引きには「話し方の準備」や「話し方のポイント」が示されている。発表の手引きには「発表の手引き」や「話し方のポイント」が示されている。

## 事例2 言語活動の充実② (B 書くこと)

本事例は、わくわくドキドキするような共通体験で書く意欲を高め、書く視点を広げたり、書き方を学ばせたり、友達との交流によって言葉を広げたりする学習活動を設定し、表現力を高めていく事例である。

言語活動例イ「経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと」を通した指導

(第1学年及び第2学年)

1 単元名・教材名 しらせたいな ～わくわく・ドキドキ・びっくりしたこと～ 【第1学年 10月実施】

### 2 児童の実態と本単元の意図

1年生の児童は、入学して平仮名を正しく書く学習から始まる。口頭作文や絵から1文、2文、3文と行数を増やし、書くことの第一歩を踏み出す。書くことに慣れてくると、長い文章を書ける児童も増える反面、何をどのように書いたらよいか分からず書くことを嫌う児童も出てくる。また、「したこと」を羅列しただけで、気持ちや様子が伝わらない文も多く見られる。「もっとここを詳しく書いてごらん」と助言しても書けない。書くことに苦手意識をもつ児童は「何をどのように書いたらよいか分からない」「自分の思いを表現する言葉を知らない」などのつまづきが見られる。一方で、この時期の児童は好奇心が強く活動的で、ものの見方・感じ方はとても豊かである。

本単元では、このような児童の実態を踏まえ、体験したことの中でも、わくわく・ドキドキ・びっくりしたことを文章で書いて家の人に伝える言語活動を通して、「したこと」を順序よく並べるだけでなく、語彙を豊かにし、表現力を高めていくことをねらいとする。順序よく書くことは、第1学年及び第2学年の大きな目標であるが、これは繰り返し学習することによって身に付けさせていくものと捉え、本単元では、伝えたいことに必要な事柄を集めたり、自分の思いにぴったりの言葉を見付けたりすることを重点に指導し、自分の思いを表現することの楽しさを十分に味わわせ、書くことが楽しいという児童を育てたい。この学習を基に、1年生2月の作文教材では、「かぎ(「」)の使い方」「読み返して間違いを正すこと」に重点をおいて指導する。そして、2年生の作文教材「メモを使って構成を考える」学習へつなげていく。

指導に当たっては、書きたいという思いをもたせるため、生活科と関連させ、わくわく・ドキドキする体験を意図的に設定し、題材を集めておく。また、書く活動を2回設定し、1回目は、共通体験をもとに書き方を学ぶ時間、2回目は、学んだことを生かして書きたい題材を書く時間とし、繰り返すことで学習内容の定着を図る。更に、書いたものを読み合い、良いところを見付けて感想を伝え合うことを通して、言葉を広げていく。

### 3 単元の目標

- (1) 書く事柄を身近な経験の中から見付け、知らせたいという思いをもって文章を書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) したことや見たことの様子が相手に伝わるように、ふさわしい言葉を選んで、順序よく書くことができる。(書くこと)
- (3) 文の中における主語と述語との関係に注意して、文や文章を書くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・書く事柄を身近な経験の中から見付け、知らせたいという思いをもって文章を書こうとしている。	・したことや見たことの様子が相手に伝わるようにふさわしい言葉を選んで、順序よく書いている。	・文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方に注意して文を書いている。
学習活動に即した評価規準	①発見したことや不思議に思ったことなどを知らせたいという思いを膨らませ、経験したことを知らせる文章を書こうとしている。 ②書いた文章を読んでもらうことで、書くことのよさを実感し、更によりよく書こうとしている。	①経験したことが伝わるように、時間の経過や大きさ・形・色などに気を付けて文章を書いている。 ②学校で経験したことの中から、知らせたいことを選んでいく。 ③経験したことを書くために必要な事柄を時間の経過や経験したことや見たことの様子、その時感じたことなどに注意して思い出している。	①助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。 ②主語と述語を照応させて文を書いている。

5 指導計画 (全6時間) (※学習内容及び評価の計画は省略)

単元の学習課題 「わくわく・ドキドキ・びっくり！」をおうちの人につたえよう！

第1次 【書く①】 共通の教材／書き方を学ぶ

- (第1時、第2時) ・「わくわく・ドキドキ・びっくり」を家の人に知らせる文の書き方を知る。  
・マリーゴールドの種を見たことを思い出し、大きさ、色、形などの様子を表す言葉を使って文を書く。
- (第3時) ・前時に書いた友達の作文から良い表現を見付ける。  
・たとえを使った短文作りをする。



第2次 【書く②】 自分の知らせたい題材／学んだ書き方を生かす

- (第4時) ・学校で経験したことから題材の一つを選んで、したこと、見たこと、聞いたことなどをよく思い出して様子が伝わるように「わくわく・ドキドキ・びっくりメモ」に書く。
- (第5時) ・「わくわく・ドキドキ・びっくりメモ」を基に、家の人に知らせる文を時間の経過に沿って書く。
- (第6時) ・書いた作文を友達と読み合い、様子が伝わってくる文を見付けたり、感想を伝えたりする。

6 本時の学習指導 (本時1・2／6時)

2時間続きで授業を行うことで、指導効果を高める。

- (1) 目標  
マリーゴールドの種について、大きさ、形、色などの様子を表す言葉を使って文を書くことができる。
- (2) 評価規準 ウの① (4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準を参照)
- (3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 本時の課題を知る。			5
「わくわく・ドキドキ・びっくり！」をおうちの人につたえよう。			
2 配られた袋を観察し、「はじめ」の部分を書く。	 <p>・時間の経過に沿った書き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き生きとした言葉を引き出すため、作文を書くときに着目させる視点に沿った活動を意図的にさせ、十分に楽しませる。</li> <li>・時間の経過の順を意識させるために、活動を3回に分ける。</li> <li>・書くことに集中させるため、活動を十分にさせた後、書く時間を設ける。</li> <li>・活動後、書かせる前に児童のつぶやきの中から出た表現や書いた中からキラリと光る表現を取り上げ、「話したこと」「見たこと」などに整理して、板書していく。目や口などのカードを貼り言葉と結び付け理解を深めさせる。また、大きさ・色・形など着目させたい視点を整理して、児童の思考の助けやヒントとなる板書にする。</li> <li>・同じものでもいろいろな表現があるということに気付かせ、表現することを楽しませる。</li> </ul>	25
3 袋の中から出てきたものを観察し、「中①」の部分を書く。	<p>【活動を引き出すしかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中身を見せなくて「何が入っているでしょう。」と問う。</li> </ul> <p>【言葉を引き出す指示・発問例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな形ですか。</li> <li>・何に見えますか。</li> <li>・どんな色ですか。</li> <li>・どんな手触りですか。</li> <li>・いくつくらいありますか。</li> <li>・においはありますか。</li> <li>・音が聞こえますか。</li> </ul> <p>○様子を表す言葉の書き方</p> <p>【書くときに着目する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①大きさ・形・色など</li> <li>②たとえ 「～みたい」「～のようだ」</li> <li>③会話文「 」</li> </ul>		10 15



4 実を割って出てきたものを観察し、「中②」の部分を書く。



5 「おわり」の部分に思ったことを書く。

6 ペアで書いた文章を読み合い、感想を交流する。

【交流の仕方の例】



○原稿用紙の使い方

ポイント3 「」の使い方を教えるために、意図的に何と言ったか問い、板書で指導後、子どもたちに書かせる。

ポイント4 次にしたことを書くときには、1マスあけて書くことを指導する。

ポイント5 先生が話したことを思い出させ、「」を使って書かせた後、板書で確認する。

・書き始めは、原稿用紙の使い方を確認しながら、教師とともに書かせ、少しずつ児童の力で書けるようにしていく。

ポイント2 書き始めは、「だれが、いつ、何をした」の文型に合わせて口頭作文させてから書かせる。



ポイント1 1マスあけるところは、青の○で書く。子どもたちは、鉛筆で○を書く。後で消せば、段落になる。

評価場面

〈学習活動に即した評価規準〉 ウの①

〈評価方法〉 作文の記述の分析

〈手立て〉

・様子を表す言葉の書き方が分からない児童には、口頭で言わせたり、板書で確認したりすることで自信をもたせて書かせる。

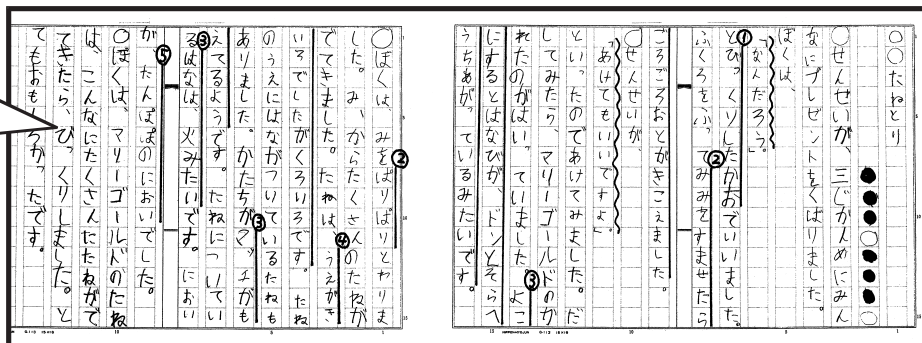
・言葉の広がりや表現のよさを実感させたり、深めさせたりするためにペアで感想を交流させる。  
 ・交流の仕方は、段階を踏んで繰り返し学習し、身に付けさせる。

【指導の手順】

- ① 「話し方」を示す。
- ② 上手な友達の話し方を聞かせる。
- ③ まねして行わせる。
- ④ 授業の中で繰り返し行わせる。
- ⑤ 見なくても話せるようにする。

【児童の作文】

- ~~~~~ 会話文
- ① 形
  - ② 音
  - ③ たとえ
  - ④ 色
  - ⑤ におい





**事例3 言語活動の充実③ (C 読むこと)**

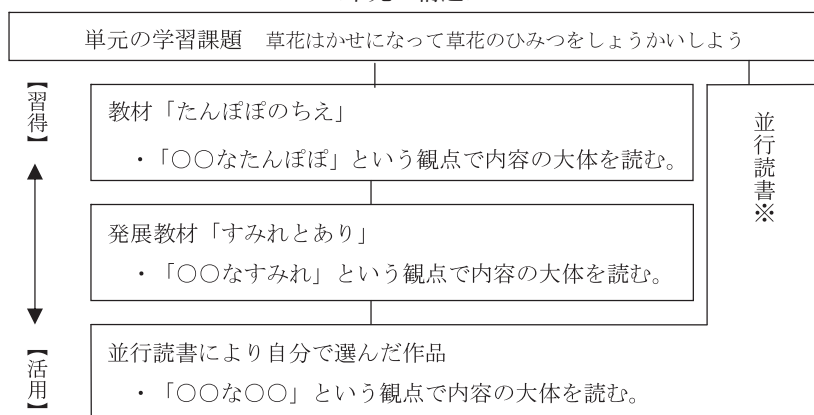
本事例は、主教材で学んだ読み取り方を用いて発展教材を読み取る、習得・活用を意識した単元構成の事例である。

言語活動例ウ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」を通した指導（第1学年及び第2学年）

1 単元名・教材名 草花はかせになって草花のひみつをしようかいしよう【第2学年 4月実施】

2 児童の実態と本単元の意図(「児童の実態」は省略)

＜単元の構造＞



本単元では、時間の順序や理由付けを表わす言葉に着目し、様子やわけなどを考えながら読むことをねらいとする。教材「たんぼぼのちえ」では、「〇〇なたんぼぼ」、「〇〇しているたんぼぼ」のように場面に合った名前を付けることでねらいに迫る。また、既習内容を生かし、発展教材「すみれとあり」、並行読書で選んだ作品を読み、まとめるという言語活動を通して指導することにより、本単元における指導の効果を高めていく。

※ここでの並行読書とは、朝の読書タイムや休み時間、家庭での読書において、草花という共通のテーマで本を選択し、読んでいくこと。

**3 単元の目標**

- (1) 植物の成長などについて説明した本を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 時間の順序や様子やわけを示す言葉に着目し読むことができる。 (読むこと)
- (3) 文の中における主語と述語との関係に注意することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

**4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準**

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・植物の成長などについて説明した本を読もうとしている。	・時間的な順序、様子やわけなどを考えながら内容の大体を読んでいる。	・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。 ・文の中における主語と述語の関係に注意している。
学習活動に即した評価規準	①文や挿絵を基に、場面の様子を想像して、読もうとしている。 ②学習したことを生かして、発展教材「すみれとあり」を読もうとしている。 ③植物の成長などについて説明したいろいろな本を読もうとしている。	①様子を表す言葉やわけを表す言葉を押さえながら音読している。 ②様子を表す言葉やわけを表す言葉を押さえながら読んでいる。 ③知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、植物の成長などを文章から見付けながら読んでいる。	①順序や様子やわけを表す言葉を理解して文章を読んでいる。 ②主語と述語の照応関係に注意して文章を読んでいる。 ③新出漢字について理解している。

**5 指導と評価の計画 (全11時間)**

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○「たんぼぼのちえ」の題名を読み、書かれている内容を予想する。 ○単元の流れや学習方法を知る。 ○全文を読み、初発の感想を書く。 ※植物の成長を説明した本を並行読書する。	○初発の感想を基にした交流の仕方 ○並行読書の進め方  単元の学習課題 草花はかせになろう	アの① ・発表の様子や態度の観察

2	○たんぽぽの花とじくの様子を基に一つ目の知恵を読む。	○時や様子に気を付けた読み方 ○主語と述語の照応  第2時から第6時までの時間を通して児童の学習状況を評価・支援していく。	アの① ・発表の様子や態度の観察 エの①② オの①② ・音読の様子の観察 ・ノートやワークの内容の考察
3	○わた毛ができる様子を基に二つ目の知恵を読む。		
4	○花のじくの様子を基に三つ目の知恵を読む。		
5	○わた毛の様子を基に四つ目の知恵を読む。		
6	○たんぽぽの知恵とそのわけを順序よくまとめる。		
7	○全文を読み、まとめの感想を書く。	○順序に気を付けた読み方 ○終末の感想を基にした交流の仕方	エの② ・ノートやワークの内容の考察
8	○発展教材「すみれとあり」を読み、感想を話し合う。	・時や様子に気を付けた読み方 ・主語と述語の照応	アの② エの② オの①② ・発表の様子や態度の観察 ・ノートやワークの内容の考察
9 本時	○「すみれとあり」を読み、すみれの知恵について分かったことをまとめる。		
10	○植物の成長などについて説明した本（並行読書）から分かったことをまとめる。	・時や様子に気を付けた読み方 ・主語と述語の照応	アの③ エの③ オの①② ・ノートやワークの内容の考察
11	○草花はかせになって、友達と「草花の秘密」を交流する。	・分かったことと感想を基にした交流の仕方	アの③ ・発表の様子や態度の観察 オの③ ・テストの考察

## 6 本時の学習指導（本時 9／11時）

### (1) 目標

「すみれとあり」を読み、様子を表す言葉とそのわけを表す言葉を押さえながらすみれの知恵を読むことができる。

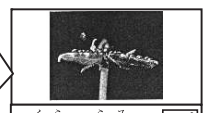
### (2) 評価規準

様子を表す言葉やわけを表す言葉を押さえながら読んでいる。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 本時の学習課題を把握し、見通しをもつ。		○学習のめあてをノートに書き、声に出して読むことでねらいを明確に意識させる。	3
	「すみれとあり」を読んで、すみれはかせになろう。		
2 「すみれとあり」を音読する。	○内容のまとまりを意識した音読の仕方	○語や文のまとまり、内容のまとまりを考えながら音読させる。	10
3 好きな場面のすみれを読み、すみれの様子が分かる名前を付ける。 (1)好きな場面を決める。 (2)すみれの様子を書く。 (3)様子に合った名前を付ける。(「○○なすみれ」、「○ ○しているすみれ」)	○順序や様子に気を付けた読み方	○「すみれとあり」の挿絵を提示し、すみれの様子がイメージできるようにする。	10
	〈予想される名前の例〉 ・ピチピチッと、たねがとび出すすみれ ・春のみちばたにさいているすみれ ・花をさかせたあとでみをつけるすみれ ・たねが大すきなありとなかよしすみれ ・なかまをふやすすみれ		

上段：挿絵コピー  
下段：様子に合った名前  
挿絵に合った叙述



ピチッピチッとたねがとび出すすみれ  
よく晴れた日には、みは、三つにさけてひらきます。  
そして、みの中から、たねがいきおいよくとび出します。

〈教師が作成した見本〉  
「たんぼぼのちえ」の各場面をこのような形式にまとめた。「すみれとあり」でも同様にまとめ、並行読書で読んでいる植物の成長について説明した本をまとめる時に活用できるように、見本を用意しておく。

〈学習状況〉  
(ア) 好きな場面を決める。  
板書にある挿絵を基に考える。全場面の挿絵一覧プリントから好きな場面を選んで切り、ワークシートに貼る。  
(イ) すみれの様子を書く。  
挿絵の説明部分を本文から探し、書き抜く。  
(ウ) 様子に合った名前を付ける。  
「たんぼぼのちえ」の学習を生かし、場面に合った名前を付ける。叙述を基に、本文には書かれていない言葉を用いて表現できている児童は、全体交流で紹介する。



評価場面  
〈学習活動に即した評価規準〉  
エの②  
〈評価方法〉  
・ワークシートの記述による分析  
〈手立て〉  
・場面が決められない児童には、すみれの花がさいている場所の説明場面と、たねをつけた場面を提示し、どちらかを選択できるよう支援する。  
・書き始められない児童には、書き出しが書かれたワークシートを与え、視写することで書き始められるよう支援する。  
・名前が付けられない児童には、交流で友達のよいと思った名前をメモするよう指示する。  
・めあてが達成されている児童には、他の場面も考えさせる。

4 ペアで交流する。 ・交流の仕方

〈話型例〉  
ぼくは、1の場面のすみれに『春の道ばたにさくすみれ』と名前を付けました。理由は、『春の道ばたに、すみれの花がさいています。』と書いてあるからです。  
ぼくがこの場面を選んだ理由は、〇〇だからです。

○話型を使って自分の考えを伝えさせる。 5  
○自分の考えと比べながら聞くようにさせる。



5 全体で交流する。 ・交流の仕方

○話型を使って自分の考えを発表させる。 12  
○自分の考えと比べながら聞くようにさせる。

6 本時のまとめをし、学習感想を書く。 【視点】  
・分かったこと ・気付いたこと  
・思ったこと ・驚いたこと  
・調べたいこと  
・友達の発表を聞いて〇〇したこと

○学習感想を書く際の具体的な視点を示し、振り返らせる。 5

## 事例4 伝統的な言語文化の指導

本事例は、古文の音読を通して、古文独特のリズムが楽しめるようにした事例である。また、昔の人と自分たちとのものの見方や感じ方を比べ、共通点や相違点に気付けるようにした。

小学校における伝統的な言語文化に関する授業は、音読・朗読・暗唱などを通して、伝統的な言語文化に親しませることが基本である。中学校においてはそれを踏まえ、一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりすることを重視して指導する。小学校では、古典文法に基づく解釈や語彙、有職故実等の詳細な解説を行う必要はない。それらは高等学校での指導内容である。これらのことから、小学校の伝統的な言語文化に関する指導では、児童が伝統的な言語文化の言葉の響きやリズムを楽しませることが重要である。

### 1 単元名・教材名 古い物語に親しもう 「竹取物語」「枕草子」「平家物語」【第5学年 5月実施】

#### 2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、古文にふれる機会が乏しく、「竹取物語」や「枕草子」、「平家物語」などは名前を知っているだけで、読んだ経験をもつ児童は少ない。

本単元で使用する『竹取物語』は、『かぐや姫』と話の展開はおおよそ同じであるが、詳しくエピソードが書かれていたり、歴史的仮名遣いが見られたりするなどの点において異なっている。『枕草子』の「春はあけぼの」は、既習の俳句と同様に四季の特徴を題材にしている。『平家物語』の冒頭部分は、児童にとって発音が難しい言葉が使われているが、七五調で書かれているので、リズムよく楽しんで音読ができる教材である。なお、無常観が書かれていることから、昔の人のものの見方や感じ方を理解することができる教材でもある。

指導に当たって大切にしたいことは、教材文の文字表記に促音がないことや、文末が「～り」になっていることが多いという、古文独特の言いまわしやリズムを音読で楽しめるようにしていくことである。そのために、文語で書かれた古文を繰り返し音読することで、古文の言いまわしやリズムに慣れるようにしていく。また、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせたり、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めさせることも大切である。そのために、教材の選定に配慮したり、言葉の意味の解説の仕方を工夫したりしていく。

#### 3 単元の目標

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| (1) 古文を楽しんで読もうとしている。         | (関心・意欲・態度)             |
| (2) 古文の内容の大体を知り、音読することができる。  | (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) |
| (3) 昔の人のものの見方や感じ方に気付くことができる。 | (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) |

#### 4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・古文を楽しんで読もうとしている。	・古文の内容の大体を知り、音読している。 ・昔の人のものの見方や感じ方に気付いている。
即した学習活動に評価規準	①古文のリズムを楽しんで、音読しようとしている。 ②気に入った古文を音読したり、暗唱したりしようとしている。	①古文を音読して、古文独特のリズムを楽しんでいる。 ②気に入った古文の内容の大体を読んでいる。 ③昔の人と現代人のものの見方や感じ方の共通点や相違点に気付いている。

#### 5 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○『竹取物語』『枕草子』『平家物語』の冒頭部分を音読する。	○古文のリズムの楽しみ方 促音が用いられていないリズム	アの① ・音読の様子の観察と感想



	○『竹取物語』は『かぐや姫』の原作であることを知り、古文という言葉を知る。	「～り」を中心にした文末のリズム 七五調のリズム	の考察 オの① ・ノートの内容の考察
2	○気に入った古文を繰り返し音読し、内容の大体を知る。 ○昔の人のものの見方や感じ方に気付く。	・古文の内容の大体 『かぐや姫』と似た書き出しであること (竹取物語) 作者が感じた四季の特徴 (枕草子) ○昔の人のものの見方や感じ方 四季の美しさの感じ方が自分たちと似ていること (枕草子) 戦乱の時代の世の中と、平和な時代の世の中の見方の違い (平家物語)	アの① ・音読の様子の観察と感想の考察 オの②③ ・ノートの内容の考察
3	○自分の好きな古文を音読し、発表会を楽しむ。 ○『竹取物語』『枕草子』『平家物語』を群読する。	○古文のリズムの楽しみ方 促音が用いられていないリズム 「～り」を中心にした文末のリズム 七五調のリズム	アの② ・音読の様子の観察と感想の考察 オの① ・発表の内容の考察

## 6 伝統的な言語文化の実践上の工夫

(1) 古文の音読を通して、古文独特のリズムを楽しませるための手立て

### 【実践の手立て】

- ①俳句や短歌、古文、近代以後の文語調の文章の音読を繰り返し行い、文語のもつリズムや響きに気付かせる。
- ②音読のさせ方を工夫する。(速読、暗唱、群読、五音と七音の分担音読、リレー音読など)
- ③俳句や短歌、古文、近代以降の文語調の文章を視写させる。
- ④俳句や短歌を作ってみる体験をさせる。

### 【「竹取物語」を音読した児童の感想】

- C1：聞き慣れない言葉を使うのがおもしろかった。特に、「なむ」を「なん」と、「ひ」を「い」と発音することがおもしろかった。
- C2：促音が無くて、言い間違えそうになるところがおもしろい。速読の時も言い間違えないで、きちんと音読できるようになって楽しかった。
- C3：『竹取物語』と『かぐや姫』の言葉が似ていることに気付いてから、意味が分かってきて、おもしろくなった。



### 【「枕草子」「平家物語」を音読した児童の感想】

- C1：『枕草子』は、俳句みたいに季節ごとの景色の様子が書いてあることが分かった。
- C2：『平家物語』は、よく分からない言葉が多くて音読が難しいと思っていたけど、七音担当のグループと五音担当のグループに分かれて群読したので、リズムが分かって難しくなくなった。

### ※古典の音読指導の展開例

- ・児童に間の取り方を示すために、教師は七五調を意識するなど、間の取り方に留意しながら範読する。
- ・言葉の意味についての解説はせず、すらすらと音読できるようになることを目標にして取り組むようにする。
- ・どの児童もある程度音読できるようになるまで、音読の練習を続ける。慣れてきたときに速読を取り入れると、「早口言葉をやっているみたい。」などと言いながら、楽しんで音読する児童の姿が見られる。
- ・すらすらと音読ができるようになった児童には、暗唱を目標に練習させていく。
- ・言葉の意味については、児童が音読を通して内容の大体を知る中で、指導していく。それ以外に解説が必要な言葉については、音読指導を終えた後にするなど、あくまでも音読指導を充実させることに留意する。

## (2) 昔の人のものの見方や感じ方に気付かせるための手立て

### 【実践の手立て】

- ① 昔の人のものの見方や感じ方に気付かせるためには、語彙や有職故実などを解説するのではなく、音読・朗読・暗唱、描画によるイメージ化などの言語活動を通して、内容の大体を理解させることが重要である。
- ② 必要最低限の知識については、児童からの質問に答える形で示したい。

### 『枕草子』の実践例

#### ○気付かせたい、昔の人のものの見方や感じ方・・・四季の美しさの感じ方が現代人と似ていること

- 「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」の、作者がよいと感じている時間帯について、自分たちの感じ方と比較した考えを交流するようにする。

(発表された考えの例)

C1：春については、桜の花がきれいに見える昼がいいなあ。でも、作者の書いている明け方の山ぎわの空も、見てみたくなった。

C2：夏については、同じ考えだな。でも、僕は蛍じゃなくて、花火だな。

C3：秋は夕焼けがきれいだから、同じ考えだな。

C4：スキー場で迎える早朝は、静かでいいなあ。作者の考えに賛成できる。

- これらの考えを交流することで、四季の美しさの感じ方が、自分たちにも引き継がれていることに気付くことができる。

### 「埼玉県中学校教育課程指導実践事例集」事例4 小中連携の充実から



中学校古典の入口である第1学年においては、古典に親しむ態度の育成を図りたい。本事例では、小学校での学習内容を踏まえた上で、口語訳を効果的に活用し、古文の表現から登場人物の人物像を捉える学習活動を展開する。

#### ○第1学年単元名 かぐや姫の人物像に迫ろうー「竹取物語」ー

「竹取物語」のあらすじをつかみ、音読する。現代仮名遣いと歴史的仮名遣いとの違いを理解するとともに、情景や人物の様子を想像しながら繰り返し音読し、内容を読み取る。かぐや姫について感想を書き、グループでかぐや姫の人物像について話し合う。

- ・本時の学習課題：かぐや姫は「やさしく、心清らかな人」だったのか。それとも「美人を鼻にかけた冷たい人」だったのか。

**事例5** 学校図書館の活用の充実

本事例は、一つの物語をきっかけに、同一作者の本やジャンルに目を向け、学校図書館などを活用して、幅広く読書しようとする態度を育てることをねらった事例である。

**1 単元名** ファンタジーの世界を楽しもう 【第4学年 10月実施】

**2 児童の実態と本単元の意図**

4年生になると、児童の読書の傾向や読書量に個人差が出てくる。また、読書は好きだが、読後の感想を聞かれるのが嫌いだったり、どんな本を読んだらよいのか分からなかったりする児童もいる。しかし、朝の読書の後に、読んだ本について話したり、自分の持っている本を貸し合ったりする姿も見られる。

本単元では、1学期に学習した「白いぼうし」が掲載されている『車のいろは空のいろ』を読んで聞かせ、あまきみこの作品を足がかりに、ファンタジーの世界に誘う。空想の世界を、想像力を働かせながら読む楽しさを味わわせたい。

まず始めに、『車のいろは空のいろ』の中から「やまねこ、おことわり」を全員で読み、ファンタジーのおもしろさや「アニメーションクイズ」の作り方を学ぶ。次に、自分で選んだ作品で「アニメーションクイズ」を作ったり、おすすめカードで紹介したりしながら、感想を交流する。クイズを作るためには、文章の中心となる大事な事柄やキーワード、人物や情景の描写などの表現の印象的な物や出来事などに注意しながら読んだり、おすすめカードを書くためには、必要な文を要約したり引用したりする必要性が出てくる。そして、互いに感想を交流することで、感じ方や考え方の違いに気付くことをねらいとしている。教室では、一人一人の感じ方の違いを大切にしながら、学級全体で読書を楽しんだり進んで読書しようとしていたりする態度を養う。

指導に当たっては、公共図書館の団体貸出しを利用し、多くのファンタジー作品に触れさせる。また、学校図書館をより積極的に活用できるよう、学校図書館にもファンタジーコーナーを設け、児童の興味が図書館に向くよう働きかける。そして、自分たちが作った紹介カードを学校図書館に掲示するなどして、自分から本のおもしろさを発信できる力を身に付けさせていく。

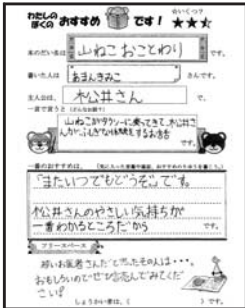


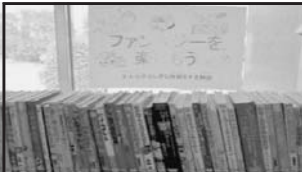

**3 単元の目標**

- (1) 同一作者の本や友達のお薦めの本を読んだり、自分が選んだ本を紹介したりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 自分が選んだ本や物語のおもしろさを紹介するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化、情景の美しさなどをとらえて読むことができる。(読むこと)
- (3) 紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりできる。(読むこと)
- (4) 「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に気を付けて、文や文章を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

**4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準**

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・同一作者の本や友達のお薦めの本を読んだり、自分が選んだ本を紹介したりしようとしている。	・自分が選んだ本や物語のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化、情景の美しさなどをとらえて読んでいる。 ・紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしている。	・「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に気を付けて、文や文章を読んでいる。
学習活動に即した評価規準	①読み聞かせを聞き、感じたことを話したり、聞いたりしている。 ②紹介された本に興味をもち、読んでいる。 ③自分の選んだ本を何度も読み返し、紹介の準備をしている。	①紹介カードを作成するために、おもしろいところを書き出したり、物語の内容を要約したりしている。 ②「アニメーションクイズ」を作るために、印象的な場面や物語のキーワードを探しながら読んでいる。	①漢字仮名交じり文で表記された本を読んでいる。

5 指導と評価の計画 (全4時間)

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<p>○ファンタジーシリーズ『車のいろは空のいろ』から「山ねこ、おことり」の読み聞かせを聞き、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アニメーションクイズ」</li> <li>・おすすめカードを書き、おもしろいところ、不思議だと思ったところを述べ合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>《アニメーションの例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*物語ばらばら事件(場面絵カードを正しい順番に並べ替える。)</li> <li>*いなかったのはだあれ?(登場しなかった人物をあてる。)</li> <li>*せりふの並べ替えクイズ(出てきた順番に並べ替える。)</li> <li>*なぜだろうクイズ(理由を考える。)</li> <li>*ダウトをさがせ(文章の読み間違えを聞き分ける。)</li> <li>*おすすめ世界一(おもしろい、ぴったりの紹介を選ぶ。)</li> </ul> </div>	<p>○感想の交流の仕方</p> <p>○紹介カードの書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アニメーションクイズ」の方法</li> </ul>  <p style="text-align: center;"><b>おすすめカード</b></p>	<p>アの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表や話合いの様子を観察</li> </ul> <p>エの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介カードの内容の考察</li> </ul>
常時	<p>○学級文庫に「おすすめ本コーナー」を設置し、お気に入りの本を紹介する準備をする。</p>	<p>○目的に応じた読書の方法</p>	<p>アの②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書記録の考察</li> </ul>
2 3	<p>○『車のいろは空のいろ』所収の作品から好きな作品を選んで読み、「アニメーションクイズ」を作って交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>同じ作品を選んだ者同士でグループを作り、順番に問題を出し合ったり、協力して問題を考えたりした。</p> </div>  <p>○自分が読んだ作品をおすすめカードで紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想の交流の仕方</li> <li>・「アニメーションクイズ」の作り方</li> </ul> <p>○目的に応じた読書の方法</p> <p>○文章の要約や引用の仕方</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>カードには、題名・書いた人・主人公・一言で言うとどんなお話・一番のおすすめ・フリースペースを設けた。</p> </div>	<p>アの③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ作りやグループでの話合い等の様子の観察</li> </ul> <p>エの①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書クイズの内容や紹介カードの内容の考察</li> </ul> <p>オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子を観察</li> </ul>
4	<p>○主人公が不思議な体験をする物語を読み、クイズを作ったり、おすすめカードに書いたりして紹介する。</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>秋の読書週間に、「4年2組のおすすめコーナー」を図書室の一角に設置した。</p> </div>  <p style="text-align: center;">教室のファンタジーコーナー</p>	<p>○目的に応じた読書の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の要約や引用の仕方</li> </ul> <p>○紹介の仕方</p>	 <p style="text-align: center;">図書室のファンタジーコーナー</p>

6 学校図書館の活用を充実させるために

- (1) 学校図書館・司書教諭との連携
  - ・月や単元に合わせた特設コーナーの設置
  - ・団体貸出しの利用(学年への貸出し)
- (2) 公共図書館との連携
  - ・団体貸出し、ブックトーク、読み聞かせ等
- (3) 読書活動ボランティアとの連携
  - ・朝読書の時間等の読み聞かせ、ブックトーク、図書室の整備等

《公立図書館からの団体貸出しの一部》

いえでででんしゃ【あさのあつこ】/うさぎのなぜなぜ屋【さとうまきこ】/おとうさんの玉手箱【富安陽子】/おばけ美術館へいらっしやい【柏葉幸子】/九月〇日大冒険【さとうまきこ】/くもりガラスのむこうには【あまみきこ】/しらぎくさんのどんぐりパン【なかがわちひろ】/タイムチケット【藤江じゅん】/だれも知らない小さな国【佐藤さとる】/とびらをあければ魔法の時間【朽木祥】/二分間の冒険【岡田淳】/夢の守り人【上橋菜穂子】/夜空の訪問者【斉藤洋】/わるくちのすきな女の子【安房直子】他 計90冊



**事例6 書写の指導の充実**

本事例は、穂先カードやデジタル教材の活用、水書用紙や自分で作る練習用紙、練習コーナーなどを活用した指導により、基本点画の穂先の向きと筆圧を意識できるようにし、筆使いに気を付けて字形を整えて書く能力を育てる事例である。展開を2時間ぶん示した。

1 単元名・教材名 ほ先の向きや力の入れ方を考えて書こう 「曲がり」 【第3学年 10月実施】

2 児童の実態と本単元の意図 (略)

3 単元目標

- (1) 筆使いについて関心をもち、丁寧に書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 「曲がり」の穂先の向きと力の入れ方に気を付け、字形を整えて書くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元計画 (全2時間)

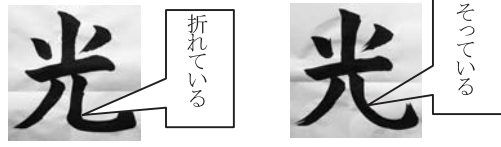
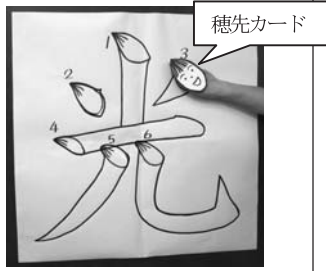

時	主な学習活動 (学習内容)	評価規準・評価方法
1	○「曲がり」の筆使いについて理解して曲がりを練習する。 ○手本を見ないで「光」を試し書きする。 「曲がり」の穂先の向きや力の入れ方	○「曲がり」の筆使いに関心をもち、「曲がり」を書くときの穂先の向きや力の入れ方を知らうとしている。 ○「曲がり」の筆使いに気を付けて、丁寧に書こうとしている。 ○穂先の向きと力の入れ方に気を付け、字形を整えて「光」を書いている。
2	○試し書きから自分の課題を見付ける。 ○「光」を穂先の向きと力の入れ方に気を付けて練習し、まとめ書きをする。 「曲がり」等の穂先の向きや力の入れ方、「光」の字形	・書いているときの様子や態度の観察 ・試し書きや練習書きの観察 ・まとめ書きの考察 ・書写カードの記述内容の考察

5 学習指導の実際

(1) 第1時

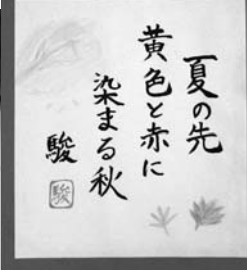
学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 身近な「曲がり」のある字の特徴について話し合う。	・「曲がり」の特徴 ・急に曲がっているが、折れてはいない。 ・終筆は「とめ」と「はね」がある。 ・片仮名・平仮名にもある。	・国語教科書の既習漢字から「曲がり」のある文字を探す活動を通して「曲がり」についての関心を高める。	7
2 本時の学習課題を知る。	「曲がり」の筆使いを知って、「曲がり」を書こ	・練習の「折れ」や「そり」と比べ、違いを理解させる。モールドで形を提示し、形の違いを明確にとらえられるようにする。	10
3 「曲がり」の筆使いを知る。	○「曲がり」の基準 ・始筆は10時半の方向 ・穂先は左を通る。 ・ゆっくり筆を運ぶ。 ・だんだん力を入れていき、筆を止め、上へはねる。	・デジタル教材の「曲がり」の運筆の動画を活用し、「曲がり」の穂先の向きや力の入れ方の理解を図る。(または、水書板や模造紙等に範書して理解を図る。)	
4 「曲がり」を練習する。	・練習の仕方 ・水書用紙 ・ワークシート ・半紙	・水書用紙を使って練習させ、その後、ワークシート、最後に半紙で練習させる。(水書用紙を使うと筆使いの練習が何度もでき、穂先の動きや筆圧がとらえやすくなる。)	18
5 「光」を試し書きする。	○「曲がり」の筆使い ① ② ③	水書用紙で練習している様子 ワークシート	8
6 本時の学習を振り返る。			2

(2) 第2時

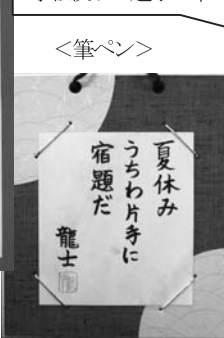
学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 本時 学習課題を知る。 「曲がり」の筆使いに気を付け、字形を整えて書こう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>「曲がり」の筆使いが不完全な例を提示して、本時の課題を導き出す。</li> </ul> 	3
2 「光」の書き方を知る。	<p>○「光」の書き方の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始筆は10時半の方向</li> <li>・光の筆順</li> <li>・「曲がり」に気を付けて書く。</li> <li>・3画目は2画目より上</li> <li>・縦画・横画・左払い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材の動画を活用し、「光」を毛筆で書く場合の穂先の向きと筆圧に注目して視聴させる。(または、水書板や模造紙などに範書して理解を図る。)</li> <li>・教材提示装置や書画カメラも可。</li> <li>・拡大図に穂先カードを当て、穂先の向きや動きを確かめる。</li> <li>・穂先カードと一緒に空書きし、穂先の向きと動きを手の動きで意識させる。</li> </ul> 	7
3 自分のめあてを書写カードに書き、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試し書きと手本との比較</li> <li>・自分の課題の見付け方</li> </ul>	<p>練習用紙の作り方</p> <p>①拡大手本（半紙大）の上に半紙を置く。 ②手本の文字を鉛筆でなぞって書く。</p> <p>例 かご書き（輪郭） ほね書き（画の中心） 始筆書き（始筆） 組み合わせ書き（穂先とほね等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習用紙を自分で作ることで、手本をよく見たり、半紙に練習する枚数が増したりする。</li> </ul>	3
4 練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習コーナー (水書用紙、色砂、テレビの動画視聴)</li> <li>・練習用紙 (かご書き、ほね書き、組み合わせ書き等)</li> </ul>		20
5 まとめ書きをする。	<p>○「光」の書き方の基準</p>		5
6 相互評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試し書きとまとめ書きとの比較</li> <li>・交流の仕方</li> </ul>		3
7 硬筆で書く。	<p>○毛筆の書き方を意識した「曲がり」の書き方</p>		2
8 本時の学習を振り返る。			2

6 他学年・他教科・日常の活動との関連

文字の配列に気を付けて書く（6年）＜小筆＞



学級便りの題字＜筆ペン＞



学級だより

平成20年 9月 10日 25日

歴史新聞

将軍への手紙

4月25日 黒船を率いて

墨に現れた。大船を率いて

メリカの大統領から手紙

社会科 歴史新聞 <筆ペン・フェルトペン>